



Nayoro City University
information web magazine



Contents

- MEIDAI INTERVIEW 特集 大塚裕土選手インタビュー
- NCU INFORMATION 5号館・図書館探索
- 佐古学長－学生自治会執行部懇談会
- サークル紹介－子ども食堂サークル
- 研究紹介－援農ボランティア研究事業

MEIDAI INTERVIEW!

特集 大塚裕士選手インタビュー

2019年7月名寄観光大使大塚裕士選手が名寄市立大学を訪問。
大塚選手は今年BリーグのオールスターMVPをとった選手。
本学のバスケットボールサークルの学生とインタビュー形式で、
対談を行いました。
普段体験できない経験のため学生たちは緊張の面持ちでしたが、インタビュー終了後の学生の目はキラキラと輝いていました。早速インタビューをご覧ください!!!

TALK MEMBER



3年看護学科
竹内 愛莉
遠軽高等学校出身



2年社会福祉学科
佐々木 翔
岩手県立盛岡第四
高等学校出身



2年社会福祉学科
小関 千那代
旭川藤女子高等学
校出身



2年社会福祉学科
川村 星那
岩手県立宮古高等
学校出身

【司会】大塚選手は名寄ご出身とのことですが、子どものころはどんなお子さんでしたか？

【大塚選手】「普通」に育ってきました(笑)外で遊んだり、田舎らしい遊びをたくさんしていました。

【司会】身長はお子さんのころから高かったのですか？

【大塚選手】大きかったですよ。小学校六年生で172cmくらいあったと思いますよ。中学校三年生まで名寄にいたのですがそのときにはもう184cmくらいでありました。でも、スポーツしていて、ガタイがいい同級生が多かったですね。

【小関】大塚選手がバスケットボールを始めたのはいつごろからですか？

【大塚選手】小学校四年生です。一つ上いところから先に始めていました。僕は、小学校一年生二年生はサッカーをやっていて、その後野球やったり、冬はスキーをしたり。そんなときに「ちよつとバスケットどう？」と言われて始めました。

【小関】小学校のころから、ポジションとかは変わっていませんか？

【大塚選手】人数が少なかったため、試合とか大会とかほとんどなくて、一回だけ、小学校五年生のときに試合に出たくらいですから、ポジションとかも決まらなかったです。

【川村】プロのバスケットボール選手を目指すようになったのはいつごろからですか？

【大塚選手】大学三年終わりか大学四年になる頃だったと思います。就職活動するが、バスケットボール選手になるのが、考えました。就職活動といつても、実業団で仕事をやりながらバスケットボール選手として活動することなんですけど。その当時は、実業団を目指す選手が多くて、今以上に「狭き門」だったので、どうしようかって。

【川村】実業団とプロとで、プロのほうを選んだ理由はありますか？

【大塚選手】バスケットボールが強い大学にいたので、人数も多くて、AチームとBチームがあったんです。僕は大学三年生までBチームにいて、大学四年生になったらAチームに上がることが決まっていました。就職活動をするのとせつかくAチームに上がったのにシーズンに出られなくなってしまう。就職活動を優先するのか、シーズンを通してバスケットボールを頑張って、結果を出してプロに進むのか。大きな決断でした。リスクもあると思ったし、恩師にも相談しました。

「佐々木」プロのバスケットボール選手としてやっていくときに不安なこととかはありましたか？

「大塚選手」いや、不安なことしかなかったですね(笑)声がかからなかったらどこもいくところがないし、生活できない可能性ががあります。能力を持っていても、みんなが見ているところで発揮できなければ評価はしてもらえない。

「佐々木」不安の中で、バスケットをしたいからプロバスケットボール選手になったのですか？

「大塚選手」基本、性格が負けず嫌いだから、不安なことはもちろんあるけどそれに負けちゃいけないっていうのがずっとあります。

名寄から札幌の高校に進学したんですけど、札幌の大きな高校で、余り成功した人もいなくて、学校を辞めちゃったりとかもあって。いろんなところから、いろんな人が集まってくるところでやってきたので、大学から社会人になるときも何とか成功したいという気持ちでいました

「竹内」健康管理とか身体の管理とか、すごく大事だと思うのですが、気を使っていることはありますか？

「大塚選手」まず調べます。どうしたら自分のパフォーマンスがあがるのか。それだけでは不十分なのでトップアスリートの人からどういう食生活をしているのかとか、話を聞きました。情報は仕入れるように心がけています。

「竹内」具体的にされていることを教えてくださいませんか？

「大塚選手」簡単なことと言えば、余計な脂質をとらないとかですね。あと、今は結婚しているんで、奥さんにアスリートフードに関する資格をとってもらいました。一人暮らしのときから徹底できていたら、身体ももっと大きくなっただろうし、そういうところは大事だと思います。

「竹内」私たちは大学で保健医療福祉専門職を目指しているのですが、大塚選手がプロとしてスキルを高めたいために努力されていること、継続されていることはありますか？

「大塚選手」まずはどのレベルにいきたいのかみておいたほうがいい。モデルにしている人はいますか？

「竹内」ぼんやりと…(笑)自分が入院していたとき、話しやすい看護師さんとそうでない看護師さんがいて。安心できる笑顔で接してくれると話しやすかったり、質問しやすかったりしました。一番はそこを指しています。



自分でこうなりたいたって思っても、そうなるために実際は違うことしているかもしれないから。

「竹内」大塚選手はモデルにしていた人はいましたか？

「大塚選手」小さい頃から、テレビとか雑誌とか見て、こういう選手になりたいかと思って、いっぱいモノマネしたり、シュートフォームを勉強したりもしていました。

でも、それはバスケットボールを楽しむ一環でやっていたことで、実際プロとなるとそれを自分のものにならなければならない。これだったら自分もできる、これは自分にはできないと選べるようになるって効率も高まります。

「竹内」大塚選手は、シュートフォームがきれいと言われていますが、モデルにしている人はいらるんですか？

「大塚選手」モデルはいません。試行錯誤を重ねた結果です。今も、もう少し自分に合った体の動かし方があるかなと思っていて、いろんな他の選手のシュートをよく見たりとかしています。

「竹内」大塚選手はまだ選手として完成形ではないということですか？

「大塚選手」そうですね、自分はまだまだできるようになっていきます。もちろん年齢的に落ちていく力もあるかもしれないけれど、考え方や反応の速さとかはどんどん成長できると思います。

自分がリーグのトップレベルで評価されるようになったのは、ここ数年の話です。他の選手からすれば遅い方だと思います。でも、現在のバスケットボールのリーグで評価してくれる人がいるってことは、これまでにやってきたことが身になり、評価されるべきことをしてこれたのではないかと最近思います。

「竹内」移籍された新しいチームでどのような役割を取りたいとか、チームの中でどのような選手になりたいとかありますか？

「大塚選手」次に行くチームの日本人選手のなかで年齢が一番上なんです。今までそういうことがなくて。チームに求められることをベテランとしてどういった形で表現していくのか、新しいチャレンジです。

プレーで言えば、今まで通り求められることはシュートだったり、流れを変えらることだったりと同じだと思いますが、バスケットボール以外の面では、年上としてチームを落ち着かせることもクラブ側から求められることなので、どういった形で表現していくのか考えています。でも、自分が今まで出会ってきた先輩方から学んできた自分の財産があるので、それを次のチームに還元できると思います。

私も自分のモデルとなるような人を見つけてそれにめがけてこれから頑張りたいと思います。

竹内 愛莉

大塚選手が自分の引き出しをみつけてみてと言っていたように、私も引き出しをつくれるように今の勉強をもっと頑張ろうと思いました。

小関 千那代

プロのアスリートの方とお話しする機会ってなかなかないと思うので、大塚選手とお話できていい刺激になりました。

佐々木 翔

「プロ」を目指すということは、スポーツも福祉も同じだなと思いました。僕も福祉のプロを目指します。

川村 星那

大塚 裕士

◎川崎ブレイブサンダース所属

北海道名寄市出身の日本のプロバスケットボール選手である。ポジションはフォワード。

「試合」名寄では、スポーツコミッション立ち上げなど、スポーツ振興に非常に力をいれています。どのよう感じられていますか。

「大塚選手」地域の子も達がいろんなスポーツに関わることができたのが嬉しかったことは僕もうれしいです。それをオリンピック金メダリストであり、僕の高校の先輩でもある阿部雅司さんが中心となってやってくれている。今のここにいる子ども達は幸せ、僕のときがあったら、もっとよかったです（笑）

子ども達が、自分の限界を決めないでチャレンジしていく環境ができたのはとてもうれしいことです。僕も、名寄には年に一回しか帰ることができないけど、バスケットを通して何か新しい、楽しい、普段とは違う刺激を子ども達に与えてあげたいと思います。

「試合」最後に、名寄市立大学の学生にメッセージをいただきたいと思っています。

「大塚選手」人によって目指すところは違うと思います。僕も大学のときに教員免許をとりましたが、自分を高める授業を積極的に取りにいったかといわれるとそうではなかったです。今の年齢になって、企業の社長さんとかと話をすると、いろんな分野に触れて勉強したり、先生の話を聞いたりしておけばよかったと思います。「楽して卒業単位を取って」とか考えていたことがもったいなかったなど。

学生のときには戻れないので、一気に全部は無理だと思えますけど、今ある生活のラインに何か少しでも加えてもらえれば、もし今目指しているものよりも自分に合ったものが見つかるかもしれません。

社会に出てからでないと細かいことはわからないことも多いかもしれませんが、学生の頃からそういうことを考えているだけで、何かあったときに自分の引き出しになるかもしれない。そういうことをぜひ考えてやってもらいたいなと思います。



『図書館の一角にあるNEWS PAPERこんなお洒落だと毎日立ち寄りたくなります。』

2階カウンターの前にあるNEWS PAPERコーナー。ここには全国紙、地方紙、専門職向けの新聞などさまざまな新聞が揃っています。

インターネットやSNSから多くの情報を得られるようになり、新聞に触れる機会が少なくなっていますが、お洒落なコーナーで新聞を読んでみませんか？



『このソファに座ってみると居心地の良さに感動すること間違いなし！』

2階のブラウジングスペースにあるソファ。このスペースからキャンパスを一望することができます。名寄の四季を感じることができ、読書をしながら、ゆったりと優雅なひとときを過ごしてみたいかがでしょうか？



あのとこのとき使っておけばよかった。こんな場所あったの！なんて後悔しないように徹底追及します！



図書館のココが好き。



『最初は、これなんだろう？と思っていました。可愛いソファ達。』

開架スペースにある丸く可愛いソファ達。本をちょっと立ち読みしたいときに腰掛けてみると、心地よい座り心地です。いろんな形のソファがあり、みているだけでもワクワクしてきます。皆さんもぜひ体験してみたいかがでしょうか？



並木道。

大学構内にある素敵な場所です。初夏の新緑、秋の紅葉など季節ごとに美しい景色がみられます。



音楽室。

主に社会保育学科の学生が講義や演習で利用しています。素敵な空間で音楽について学んでいます。この他にもピアノレッスン室があります。



小児・母性看護学実習室。

普段は看護学科の学生が講義や演習で利用しています。地域の方を対象としたタッチケアサロンの会場にもなっています。



3

東) WEB上で学習に必要な調べ物をする事も増えていますが、検索したページが閲覧禁止になっていることが多いです。また、パソコン室が9時でないで開錠されないのはとても不便です。

学長) 本学では、近年セキュリティ対策を強化しました。そのため閲覧禁止のページが増えています。また、パソコン室は担当職員がサイバー攻撃等を監視できる時間帯に開室しています。セキュリティを維持しながら、皆さんが学習に必要な情報入手や資料印刷が可能になるように対応を検討します。



4

学長) 皆さんの日々の学習への取り組みはどうか。講義以外の学習時間はどのくらいですか。

東) 経済的理由からアルバイトをしている学生も多く、毎日学習するというよりは試験前などに集中して学習することが多いと思います。

学長) 高等教育無償化に加えて、本学独自の奨学金制度も設けました。皆さんの学習できる環境づくりに向けて、本学としても努力していきますので、皆さんにも頑張ってもらいたいと思います。



5

学長) 学内のパソコン設備やWIFI環境の整備を進めていますが、本学の学習環境についてはどうですか。

東) 図書館には、個人やグループで学習するスペースが多く配置されていて、日々の学習はもちろん、特に試験期間は閉館まで図書館で学習しています。現在、日曜や祝祭日は休館となっていますが、開館することはできませんか。

学長) 新図書館ができて学習環境は格段に良くなったと思っています。開館日・時間含めた新図書館の運用面についても、皆さんの要望を聞きながら徐々に改善してきました。日曜・祝祭日の開館のためには財政面での課題もあり、すぐに解決することは難しいかもしれませんが、学習環境の整備は大学として大変重要な課題と考えています。

／佐古学長と学生自治会執行部との懇談会が開催されました／
日頃の学生生活を通して、学生から自治会に寄せられた要望など、直接学長と話し合う機会となりました

佐古学長-学生自治会執行部



学長) 授業評価アンケートを学生の皆さんにお願いしていますが、授業評価アンケートについてはどう思いますか。

中田) あった方がよいと思いますが、WEB上で答えるようになってから、ログインして入力するのが大変で、むしろ不便になったと感じます。

横山) アンケートに回答しても授業が改善されないのであれば、やっても意味がないように思います。

東) アンケート結果をスマートフォンや学外のパソコンから見る事ができないので不便です。

学長) 皆さんの意見を反映していきたいです。残念ながらアンケート回答率が高くありません。皆さんのご協力をお願いします。

1



1年社会福祉学科
中田 祥文



2年保育学科
東 叶恵



1年社会福祉学科
高久 翔太郎



2年社会福祉学科
横山 実優

学長) 本学の生活環境についてはどうですか。5号館が整備されて、学食や学内2つめのコンビニエンスストアもオープンしました。

東) コンビニエンスストアの平日の営業時間をもう少し長くできませんか。できれば休日も利用したいです。

学長) 立地から本学の学生・教職員による売り上げがほぼ全てのため、現状では採算面で難しいでしょう。収益向上に向けて、皆さんからいろいろなアイデアを出してもらえたらと思います。

中田) 更衣室やシャワールーム、空き時間に過ごせるようなカフェがほしいです。

学長) 施設設備の改修を伴うものは予算的にすぐに対応するのは難しいのですが、引き続き検討し、可能なものから実現していきたいと思います。

2





こども食堂サークル

名寄市立大学では、名寄市、名寄市社会福祉協議会、市民ボランティアの協力により実施されている「なよろ子ども支援プロジェクト」に参画しています。名寄市内の小中学生を対象に子ども食堂「だだちゃ」（手作りの食事提供）、学習支援「もっちもち」（大学生による学習支援）、子どもの居場所「すびか」（自由に過ごせる居場所の提供）を行っています。年4～5回週末に市内公共施設で開催しており、市内全域から20～30名の子ども達が参加します。

プロジェクトに参加した本学学生が、「より主体的にプロジェクトに参画していきたい！」という思いから2019年4月「こども食堂サークル」（サークル長：社会保育学科3年秋山さくら）を立ち上げました。立ち上げ前には学生企画の学習会を開催し、旭川市での先駆的活動から子ども支援への理解を深めました。サークルでは、年度当初の関係機関との打ち合わせ、メニュー決めや学習支援の準備など活動前の打ち合わせに参加します。活動後には振り返りを行って、子どもの様子や配慮すべき点などを共有し、次の活動につなげています。

プロジェクトでは、リピーターの子ども達も増えて、子ども達と大学生とが関わる貴重な居場所となっています。こども食堂サークルも活動の回数や場所を増やして、より多くの子ども達と大学生とが関わりたいと考えています。



援農ボランティア研究事業

昨年に引き続き、今年度もコミュニティケア教育研究センター課題研究として、援農ボランティア研究事業が実施されました。名寄の特産品であるアスパラとスイートコーンはスーパーなど小売店側から需要が大きく、名寄の気候・風土も適していますが、収穫の際の人数が足りず、生産は縮小傾向にあります。

一方、大学生はせっかく農業がさかんな名寄市に来て、あまり農業・農村と関わる機会はなく、距離が遠くなくなっていました。

そこで、名寄市立大学・名寄市・JA道北なよろが協力して農家・学生向け説明会の開催や作業条件の統一、作業服の貸与などサポート体制を組み、アスパラとスイートコーンの収穫・調整等の作業を大学生に手伝ってもらって援農ボランティア事業を実施しています。両者からの評価は概ね好評で、のべ94名の学生がのべ27戸の農家さんの元で援農ボランティア活動に従事しました。



編集後記

名寄はすっかり冬景色となりました。名寄市立大学WEB広報誌2019 Winter号をお届けします。

本号では、「名寄市立大学の今」をイメージできるようなビジュアルな広報誌を目指しました。メイン記事では、Bリーグで活躍を続ける大塚裕土選手（名寄市出身）をお迎えし、学生との対談を行いました。「名寄から夢をかなえよう」そんなメッセージをお伝えできたでしょうか。

最後にこの場をお借りして、ご協力頂いた大塚裕土選手、池田俊一様、本学学生ならびに教職員の皆さま、編集作業にご尽力頂きました広報web委員会の皆さま、伊藤敏勝主査、尾崎彩香様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

名寄市立大学広報web委員長 結城 佳子

< 広報web委員 >

- 結城 佳子
- 小野寺 理佳
- 山本 達朗
- 今野 聖士
- 中西 さやか
- 室矢 剛志

2019年12月発行